

令和8年度 多治見市農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当地域は、2025年度の水田面積が約136haであり、2024年度（約138ha）と比較して2ha減少した。自己保全管理の休耕田については、30.9ha（水田面積の約22%）と2024年度（38.9ha）と比較して8.0ha減少しており、これらを合わせると農作物が作付されている水田は6.0ha増加した。

それらの要因は、農業者の高齢化による耕作放棄、市街化区域における宅地化や相続を契機とした農地転用の進行などがあると考えられる。しかし、WCS用稲をはじめ、新たに農作物を作付けする農業者もあり、全体としては農地の増加に繋がっていると思われる。

引き続き、農地減少の抑制や農業振興を図る必要があるが、依然として担い手確保は厳しい状況にある。個人農業者による広範囲な農地の活用には限界があり、「営農組織」での持続可能な農業経営が望まれている。

2 高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

当地域は、周辺部を山地が取り囲む盆地で、夏は暑さが厳しく冬は寒い地域である。陶土や採石の生産で知られるように、やせた土地が多く、水稻以外の団地化、品目の拡大が難しい。主食用米では高温耐性品種への転換など「美味しい米・売れる米」作りにも積極的に取り組み、飼料用米やWCS用稲の取組みとともに、水稻生産のバランスを保つことに努める。併せて、産地交付金を活用し、畑作化による野菜の地産地消も進めていく。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

市街化区域では耕作地が減少し、自己保全管理農地も増えている。今後、農業振興地域をはじめとした優良な農地において労働力を確保していく必要がある。このため、営農計画書で水田の利用状況を把握し、畑作化についての検討も行っていく。また、農産物直売所「駅北ファーム」での販売による「地産地消」の取り組みに対して産地交付金を活用し、安全で新鮮な野菜作りを目指し、需要のある農作物の作付け誘導を図る。

4 作物ごとの取組方針等

（１）主食用米

2025年度の作付面積は57.12haであり、前年度の作付面積58.91haとほぼ同一の数値となった。高温耐性品種への転換を促すなど、地域に合った、美味しい米作りに取り組むべく、関係機関で協力、農業者を支援していく。

（２）非主食用米

ア 飼料用米

2025年度は77.7aの作付けがあり、2024年度の83.50aと比べて5.8aの減少となった。主食用米の需要が高まったことによる作付けの転向、酒造好適米の作付けに転向した事等が主な要因と考えられる。今後、畜産との連携など供給先の確保が課題。

イ WCS用稲

飼料高騰が続く中、2022年度から新規就農者によるWCS用稲の作付けが始まり、畜産との連携の動きが見られる。今後もWCS用稲に取り組むことができるよう、産地交付金の対象とするとともに作付けの促進を支援する。

ウ 加工用米

離農等のため作付面積としては0㎡であるが、以下の理由により受け皿を用意する。

- ①加工用米の作付への新規参入をしやすいするため
- ②近隣市（土岐市、瑞浪市）と個票の足並みを揃えるため

（３）麦、大豆、飼料作物

2025年度の大豆の作付面積は、前年度（78.9a）から19.6a減少の59.3aとなった。麦や飼料作物については、作付けが行われていないことから、周知と共に技術的な問題や販路などを考慮し、作付けの促進を検討する。

（４）高収益作物

駅北ファームに出荷する野菜（れんこん、トマト、いちご、かぼちゃ、ねぎ、たまねぎ、さといも、じゃがいも、アスパラガス、その他野菜）、花き・花木、果樹を拡大し、地産地消を推進する。

5 作物ごとの作付予定面積等

（単位：ha）

作物等	前年度作付面積等		当年度の作付予定面積等		令和8年度の作付目標面積等	
		うち 二毛作		うち 二毛作		うち 二毛作
主食用米	58.91		57.12		58.02	
備蓄米	0		0		0	
飼料用米	0.77		0.50		0.50	
米粉用米	0		0		0	
新市場開拓用米	0		0		0	
WCS用稲	1.62		1.62		1.62	
加工用米	0		0.1		0.10	
麦	0		0		0	
大豆	0.59		0.57		0.57	
飼料作物	0		0		0	
・子実用とうもろこし	0		0		0	
そば	0		0		0	
なたね	0		0		0	
地力増進作物	0		0		0	
高収益作物	18.57		18.03		18.03	
・野菜	16.66		16.09		16.09	
・花き・花木	0.34		0.37		0.37	
・果樹	1.57		1.57		1.57	
・その他の高収益作物	0		0		0	
畑地化	0		0		0	

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目 標	前年度（実績）	目標値
1	直売所に出荷される野菜 （詳細は別紙を参照）（基幹作）	直売所販売への助成	作付面積	（7年度） 238.31a	（8年度）340.00a
2	飼料用米 加工用米 WCS用稲 （基幹作）	低コスト生産への助成	飼料用米作付面積	（7年度）77a	（8年度）50.00a
			加工用米作付面積	（7年度）0a	（8年度）10a
			WCS用稲	（7年度）162a	（8年度）162.00a
			計	（7年度）239a	（8年度）222.00a
			飼料用米及び 加工米の生産費	118,000円/10a	120,000円/10a
			WCS用稲の生産費	129,000円/10a	120,000円/10a

7 産地交付金の活用方法の概要

都道府県名:岐阜県

協議会名:多治見市農業再生協議会

整理 番号	使 途 ※1	作 期 等 ※2	単 価 (円/10a)	対象作物 ※3	取組要件等 ※4
1	直売所販売への助成	1	9,000	直売所に出荷される野菜（別紙のとおり）	対象作物を出荷・販売目的で作付けする販売農家等であること 駅北ファームの出荷者組織に登録していること 転作野菜を1a以上作付けし販売していること
2	低コスト生産への助成	1	6,000	飼料用米、加工用米、WCS用稲（基幹作）	対象作物を出荷・販売目的で作付けする販売農家等であること 低コストに対する取り組み（共同利用施設での乾燥調整、肥効調節型肥料の施用など）を1つ以上行っていること

※1 ニモ作及び耕畜連携を対象とする使途は、他の設定と分けて記入し、ニモ作の場合は使途の名称に「〇〇〇（ニモ作）」、耕畜連携の場合は使途の名称に「〇〇〇（耕畜連携）」と記入してください。
ただし、ニモ作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。
なお、耕畜連携でニモ作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、使途の名称に「〇〇〇（耕畜連携・ニモ作）」と記入してください。
※2 「作期等」は、基幹作を対象とする使途は「1」、ニモ作を対象とする使途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする使途は「3」、耕畜連携でニモ作を対象とする使途は「4」と記入してください。
※3 産地交付金の活用方法の明細（個票）の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。
※4 産地交付金の活用方法の明細（個票）の具体的要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。

別紙

多治見市産地交付金対象作物コード

作物等コード	作物等名
201	トマト
204	かぼちゃ
205	いちご
212	ねぎ
213	たまねぎ
217	さといも
218	れんこん
223	じゃがいも
225	アスパラガス
227	その他野菜